

タイトル 『防波堤のピクニック』 作 上原英司

登場人物 女2人、男4人

ナギサ

ナミ

夏木（アキラ）

水野

富沢（トミー）

武藤（ムッティ）

寂れた浜辺の防波堤。

それはコンクリートで固められた建造物ではなく、天然の岩石を無造作に積み重ねただけのものである。防波堤の周囲には消波ブロックが敷き詰められており、浜辺から望めば出島のようにも見える。

冬場のある時期になると防波堤から望む海には螢火のような灯りが群れる。時刻から明け方に限定して、一般に開放されたシラスウナギ漁のランタン灯である。

浜辺は海に浸食されている。

防波堤はそんな傷口を覆つよつに、浜辺と密着して楕円形に広がる。奥は海。左右中央、それぞれの先には砂地へ降りる階段がある。

## 【一】

風のない朝。

突き出た岩に腰掛けて、水野が色とりどりの造花をタコ糸に通している。編んでいるのは花嫁が首から下げるようなフラワールレイ。

寒さのためか、手元を狂わせてタコ糸で手を切ってしまう水野。

水野（指を舐めて）イテッ…。

上手から裸足でやってくる武藤とナミ。

武藤はウエットスーツ姿、ナミはバンダナに包まれた弁当箱をぶら下げている。

二人に気づくと、傍らのリュックサックにレイを隠す水野。

ナミ オイ。  
水野 まだいたの？  
ナミ 悪い？ 吞まれてどっか行っちゃった。  
水野 靴履けよ。  
ナミ 波打ち際ずっと歩いてたの。  
水野 マジで？  
ナミ 伊勢屋くらいまで行って、出逢って…。  
武藤 出逢ったんだよ。  
ナミ アキラ見た？  
水野 知らね。  
ナミ やっぱ、完全に見失ったし。  
武藤 明日も裸足でいいじゃん。  
ナミ 頭悪くね？  
水野 (笑って) ここでハイヒール？  
ナミ 履かねえし。  
武藤 コイツ来んの？  
ナミ 当たり前じゃん。  
武藤 良くなったのかい、オヤジさん？  
水野 配達は無理っぽいです。パン捏ねんのも俺が…。  
ナミ なのにムッティ来ねえし。  
水野 あるんですか、何か？  
武藤 ツアーだよ。(顎で浜を指し)そこでバーベキュー。  
ナミ 飲んだくれてんだけじゃん。  
武藤 同じだろ。  
ナミ 一緒にすんなよ。こっちは結婚式だから。  
武藤 仕事なんだなあ、肉焼くのも。  
水野 ああ…。  
ナミ 海行くの楽になつたって喜んでんの、あのバカ。  
水野 (浜に目をやって)家、すぐそこだもんな。  
武藤 今年は駄目だろ。潮がメチャクチャになつてんから。  
水野 ここできてからみんな言ってますよね…。(周囲を見渡す)  
ナミ 毎日朝の四時に帰って来られてみ？  
武藤 そんなもんだよ。  
ナミ それからご飯作ってんの。ウナギで稼げんなら苦労しないし。  
武藤 宮川ってオヤジ知ってるか？  
ナミ あっ、知らない。  
武藤 レジェンドだよ。パチプロ崩れから、ウナギでペンツ買って家建てた。  
水野 見たことない？ 壺みたいな丸い魚籠持った…。  
ナミ ああ、浦島？

水野 太郎が持つてそうなやつ。

武藤 いまどき竹魚籠なんか使ってるの、あのご本尊くらいだろうな。

ナミ いるいる、寒くなると伊勢屋ん前をチャリンコで走ってるよね。死にそうじゃん

コボコボで。

武藤 あれでまだ現役なんだよ。

ナミ セコくね？ もつウナギやる必要ないじゃん。

武藤 カネなんだけどカネじゃねえんだな…。

ナミ 意味分かんないし。

武藤 ウナギも含めてこの浜だよ。貧乏でもみんながハッピーに過ごせる場所って最高だ

と思わねえ？ それが重要なんだよ。

ナミ アンタだけでしょ？

武藤 みんなそう思ってただよ。だから何も変わってねえんだ。

ナミ 変わってんじゃない、ここ。

武藤 浜がこれ以上削れねえために作ってるの。

ナミ そうなの？ ツーか、アキラがちゃんと働けばそれでいいから。

水野 ……。

武藤 (ナミの肩を叩き) まっ、そんなわけだ。さっきの話だけだよ…。

ナミ ……考えとく。

武藤 情けねえ男でゴメンよ…って唄あったな。

ナミ (波間に目をやって) 東京から？

武藤 ああ、ガキばっかのツアーだよ。板でも売れりゃ願ったり叶ったりなんだが…。

下手へ去ってゆく武藤。

ナミ 明日ピーカン？

水野 予報知らねえの？

ナミ どっち？

水野 西高東低、冬型の気圧配置で大荒れの天気になるでしょう…。

ナミ マジで？

水野 嘘。

ナミ (水野の背中を小突いて) ふざけんなよ。

水野 キレイな冬晴れが広がるって。

ナミ (空を見上げて) 大丈夫かよ。最近外れてはっかじゃん。

水野 じゃあ雨だ。

ナミ うるっさいな。明日は絶対に…っわっ。(バランスを崩し、咄嗟に水野の背中に抱き

つく)

水野 ……！

ナミ 乗っけてって。

水野 (驚いて) えっ？

ナミ カブの後ろ！ このまま海岸通りブツ飛ばしてさ、国道に出んの。バチエラーパー

ティしよ。

水野 パチエラー？

ナミ (やや不安そうに) パチエラー？

水野 パーラー？

ナミ よく分かんないけど、たぶん独身。

水野 俺もそうだ。

ナミ アメリカ。独身最後の夜にデートすんの、他のこと。

水野 それ、男たる？

ナミ ナミはパチエラーガールなの！

水野 キレんなよ。

ナミ (背中に強く抱きつき) ねえ、結婚式の前日に浜から抜け出さって面白くない？

水野 ……。

ナミ そしたらアキラ、ビビるかな？

水野 無理だよ。

ナミ 何で？

水野 トミーを待ってたんだ。

ナミ (水野を突き飛ばすようにして離れ) また？

水野 ランタン吊るす棒買いに行くから。

ナミ 最低だね。

水野 俺が買っくんじゃねえよ。

ナミ ちゃんと働けよ。

水野 好きでパン屋なんか継ぐか。

ナミ 恵まれてんよね、就職しなくていいから。

水野 俺は夏木が羨ましいけどな。店の力ネだって、どうせナミが出してやるんだろ。

ナミ ハッ？

水野 アテにしてんだよ、きつと。

ナミ 出すわけねえし。

水野 でもトミーが…。

ナミ 何適當なと言ってるの？ お店やりたいのアキラだから。

水野 どっちだっていいけどさ、俺は。

ナミ じゃあ余計なこと言っなよ。

水野 (舌打ちをする) ……。

ナミ いっそムッティントコで雇ってくんないかな。

水野 (笑つ) カネ困ってるのムッティさんだろ。さっきもその話なくせに。

ナミ ちゃんと働くんなら、考えてもいいって思ってたよ。

水野 うまく丸め込まれてるんだよ。

ナミ これから結婚すんだけど！ (くしゃみをする)

水野 (弁当箱を取り上げて) 夏木に渡しゃいいんだろ？

ナミ 自分で渡すから。

水野 風邪ひいたらどうすんだ。

ナミ 水野ってさ…。

水野 何？

ナミ 中学んときからずっとだよ、おせっかい。

下手よりロングボードを担いだ富沢がやってくる。

富沢 まだ待ってんの？ ずっと波打ち際をウロウロしてたろ。

ナミ 朝ご飯食べれないと機嫌が悪くなんの。犬と一緒にだから。ねえ、明日のドレス作っちゃった。

富沢 ウエディング？

ナミ ヤバイよ、手作りだから。

富沢 上がる気配なしだぜ。

水野 (弁当箱を返して)…コメン。

ナミ (受け取らず)…靴履いてこよ。(富沢に)コンロ忘れないでねっ。

中央へ去ってゆくナミ。

その後ろ姿を見つめている水野。

富沢 (ボードの端で水野の後頭部を小突き)はっ？

水野 何だよ。

富沢 俺ここにいるんだけど。(ボードを置く)

水野 (海に目をやって)面ツルだな。

富沢 オンシヨアがちょっとあった。

水野 モモコシぐらい？

富沢 たまにハラ。

水野 入る意味あんの？

富沢 走ってみるよ、お前も。

水野 毎日は知ってるよ。

富沢 波の上だよ…ずっとアウトで漂ってる。

水野 死ねばいいのに。

富沢 ソウルな女だぜ、ナミも。ずっと待ってたんだから。

水野 待つ必要なんかねえよ、あんな奴。

富沢 (笑って)何キしてんの。どうすんだ、弁当箱？

水野 渡すよ。

富沢 配達は？

水野 サボれっこないだろ。

富沢 どっちかにしろ。

水野 ナミには渡すって言ったんだ。

富沢 てめえで待たなくていいつつったんだろ。明後日からウナギはじまるんだぜ？

水野 べつに今日買いに行かなくなってる…。

富沢 一年分のウナギが溜まってんの。初日は。真冬の夜に海の中でじっとしてるのはツライぜ。けど、その分返ってくるんだよ。

中央からトランクを引いたナギサがやってくる。

水野 そこまでして稼ぐ気ねえから。

富沢 ロールスロイスをプールに落としてやんよ。

水野 夏木をアテにしてるんだろ？ カネ出さねえってさ、ナミは。

ナギサ (足下を見つめ) …何でフナムシなんかいるの？ ファックね！

フナムシを踏みつぶそうとしてハイヒールを岩の谷間に引っかけてしまっつナギサ。

引き抜こうとするが抜けない。

ナギサ クソツタレな岩場！ (引っかかったハイヒールを脱ぐ)

遠巻きにナギサを凝視する水野

気を取られている間、水野の上着のポケットを弄る富沢。

水野 触んなよ！

二人の存在に気づいたように振り返るナギサ。

富沢 早く来いよ。(ボードを担ぐ)

水野 弁当箱

下手へ去ってゆく富沢。

まじまじと水野を見つめるナギサ。

ナギサ (弁当箱に目をやって) 奥さんの手作り？

水野 ……。

ナギサ 食べれば？

水野 俺のじゃないよ。

ナギサ 吹きっさらしでお弁当の番？ のどかなもんね。(タバコを口にくわえる) 海風ってこんな厳しかったかしら。もっと優しくかった気がするけど。(何度試みてもガスライターが着火しない) このヒトはどうやってタバコに火をつけてるの？

水野 吸わないから…。

ナギサ そう。(ガスライターを海に投げ捨てる) …もっと早く帰ってくるんだった。(水野に微笑みかけて) バカな妹に先越されちゃったの。

水野 ……。

ナギサ アタシの身体見えてる？

水野 ……。

ナギサ 面倒くさい？

水野 え？

ナギサ 話すのが…。

水野 仕方ないよ。

ナギサ 仕方ない？ どういう意味？

水野 いや…。

ナギサ 関わり合いになるのが？

水野 違うよ。

ナギサ 言ったよね、自分で？

水野 パン食べる？

ナギサ 何でパンなの…。

水野 (紙に包まれた菓子パンを取り出して) パン屋なんだ。

ナギサ 困ったらパンを出せば解決すると思ってるの。それってパン屋の発想ね。

水野 (菓子パンを差し出して) 俺が焼いたんだよ。

ナギサ 貧しい子どもに配って歩いてるんだ？(リュックサックの中を覗き)これ背負って町から町へホトトギス…お花まで配ってるの？

水野 食べないの？ さっきお腹鳴ってたよ。

ナギサ (造りかけのレイを取り出して) ハイビスカスじゃない。あなたレイを作ってる

の？

水野 完成してないよ。(菓子パンを口に放り込む)

ナギサ ヒトの才能って妙なところに出るものね。(ハイビスカスに顔を近づけて)懐かしいわ、ハワイの匂い…。

水野 本物の花じゃないよ。

ナギサ 誰にあげるの？

水野 誰って…。

ナギサ 好きな女の子？

水野 明日結婚するんだ、彼女。

ナギサ ステキね。世界で一番幸せなのはレイをプレゼントされる花嫁…。(レイを首に

掛けて)似合う？(はしゃいで)何浮かない顔してるの。幸せに決まってるじゃない。

水野 ……。

ナギサ (頬杖をつき)背ひれが三本あるトビウオみたいなショートに乗ってた。ちょうど

どこの海。まだ右場ができる前、あっちまでずーっと浜辺が続いてて…。

水野 海入るの？

ナギサ アタシじゃなくて…レイを首から掛けてもらっはずだったヒト。

水野 (レイが気になって)もついい？

ナギサ 花嫁のお名前は？(水野にレイを返す)

水野 ナミだよ。(レイを丁寧にリュックサックに戻す)

ナギサ 妹と同じ名前だね。(少し考えて)…花嫁って汐見台に住んたことある？

水野 三丁目の取り壊されてる大きな家だよ。  
ナギサ ……そこ、アタシの実家よ。

水野 ええっ？

ナギサ 花嫁ってナミのことなのね…。

水野 お姉さん？ じゃあ明日の結婚式に…。

クラクションの音 続いて小型バイクのエンジン音

弾かれたように下手を見る水野

水野 (ポケットを弄り) キー持ってったな！

水野はリュックサックを背負つと慌てて下手へ走り出す。

ナギサ 結婚式か…。

トランクに腰掛けて弁当箱の蓋を開けるナギサ。

ナギサ (顔を曇めて) 食べるだけマシね…。

ナギサの背後から水しぶき。

白いショートボードが海から投げ込まれる。裏には三本のフィン。

ナギサ (ボードを見つめて) ……。

ウエットスーツ姿の夏木が這い上がってくる。

夏木 (目が合つて) 珍しい？

ナギサ 同じショートに乗ってるヒト、昔知ってた。

夏木 そいつが波に吞まれて死んだ？

遠ざかる小型バイクのエンジン音

夏木 うまい？

ナギサ 海を見ながらお弁当なんて何年ぶりだろ。ピクニックみたいね。

夏木 (舐め回すように眺めて) どっから来たの？

ナギサ ホノルル…。

夏木 はい？

ナギサ ハワイ。

夏木 ああ。

ナギサ 昨日の朝食はペリーズ・スモーギーのバイキング。

夏木 スモーキー？

ナギサ そう、タバコ屋

夏木 朝飯は一服？

ナギサ (笑って) スモーキーだから。そのコンドミニアムの真ん前にある食堂の名前。クヒヨ通りって分かる…わけないか。一秒経って気づいたわ。

夏木 わざわざハワイからピクニックをやりには？

ナギサ 妹が結婚するの、明日。海沿いに庭付きのお家でも建てたんじゃない？ 広いお庭にはハンモックがあつて、バーベキューピットにポータブルバー。夜はアイランドマ

ティーニで乾杯して…毎晩パーティーね。

夏木 どの話をしてんの？

ナギサ そんな場所、ご存知？

夏木 あるとしたら、山の向こう側…ねえな。駅を間違えてんのか、そっちの頭がオカしいのかどつちかじゃね？

ナギサ (吐き捨てるように) 潮風まで腐ってる。

夏木 プルコギ？

ナギサ 朝からどつというセンスしてるんだろ。(弁当箱の蓋を閉じる)

弁当箱をひったくる夏木。

ナギサ ちょっと。

夏木 ナミが作った弁当じゃん。

ナギサ 知ってる？

夏木 (弁当箱を岩場に叩きつけ) 腹減ってたんだけど。

ナギサ どこ住んでるか教えてくれない？

夏木 冗談じゃねえよ。

ナギサ 言ってること分かる？

中央からスニーカーを履いたナミがやってくる。

ナギサ (ナミに気づき) ……。

夏木 何、飯置きっぱにしてんの？ 乞食に食われちゃったんだけど。

ナギサ 第六感ってあるのね。なんか、懐かしい奴に出逢える気がしたの。

ナミ (夏木に) 誰？

ナギサ 忘れちゃった？ もう十年になるもんね。帰ってきて早々、変なのに絡まれて困ってるの。出前でも取ってやって。漬れてなきや駅前にもナギ屋あったわね。(夏木

に) 特上か現金、選んで。

夏木 (ナミに) 知り合い？

ナギサ 言いたいことは佃煮にする程あるけど、まずは祝福ね。結婚おめでとう。

ナミ 心臓止まりそうなんだけど…。

夏木 (ナミに) 聞いてんのか？

ナミ このヒト、アタシのお姉ちゃん！

夏木 ハッ？（事態が呑み込めず）どうしてココにいる。くたばったんだろ？

ナギサ アタシが？

夏木 結婚式呼んだ？

ナミ 呼んでねえし…。

ナギサ 死んだことになってんだ…。

夏木 無理だから。こんな奴の身内になんの。

ナギサ このキチガイと結婚？

夏木 コイツ、煽ってるの？

ナギサ 防波堤に這い上がってくるヒト初めて見た。凄いね。この十年で人間は猿になっ  
たの。

夏木（シオートボードを海に投げ捨て）何だと、コラ？

ナミ やめろよ。

夏木 俺こんな奴認めねえから。

海に飛び込む夏木。

ナギサ 家を売っぱらうなんて、うまいことやったね。

ナミ ……。

ナギサ ツンボ？

ナミ（ポツリと）ママ、死んだのよ。去年ガンで…。

ナギサ そう。

ナミ 親が死んだんだよ。

ナギサ 他にどんな感想を持ちゃいいの。

ナミ 信じらんない…。

ナギサ 住んでるの、どこ？

ナミ 何で結婚のこと知ってるの？

ナギサ こっちが聞いてただけよ。

ナミ 親戚にも言ってるねえし。

ナギサ 予感がしたのよ。

ナミ バカじゃねえの？

ナギサ 立ち話をもう勘弁してくんない。（トランクを叩き）これ置かせて。

ナミ 勝手に置いてくれば。（浜に目をやって）真ん前の平屋、分かる？

ナギサ 小学校のウサギ小屋みたいなの？

ナミ 通りから二軒目だから。

ナギサ 疲れてんだだけ。

ナミ 表札に「夏木」って書いてある家。カギはポストに入ってるから。

ナギサ 本当に住んでるの？

ナミ しつこいし。どっちかにしてくんない？ うち来んの、来ないの？

ナギサ 家と土地を売って住んでるのがウサギ小屋？

ナミ ちゃんとした家だから。

ナギサ 国際的に通用するウサギ小屋だろ？ どつやって処分した？

ナミ (苛立って) 結婚式が終わるまで待つてくれない？

ナギサ いますぐ説明するんだよ。

ナミ 家と土地を相続したのアタシだから。

ナギサ 長女はこつち。法律知ってる？

ナミ アンタさ、死んだことになってるの。

ナギサ (笑つ) 死亡記事が新聞に出てた？

ナミ どうか行つてから七年経つと死んだことになんの。

ナギサ …失踪宣告食らつたのね。

ナミ じゃなきゃ売れねえの、家が。

ナギサ …お力ネは？

ナミ だから帰つてきたの。

ナギサ アタシ殺して幾らになつたんだよ。

ナミ 六百万。

ナギサ 家と土地合わせてそんだけ？ バカなところもママそっくり…。

ナミ カネじゃねえから。

ナギサ ハッ？

ナミ 何にも知らねえくせに…。どんどん狂つてくママとあの家に二人だけよ。もう嫌なの。みんなりセットして新しい生活はじめたかつたんだよ！

ナギサ ウサギ小屋とプロパンガスで？ 騙されてるって何で気づかないの？ こんな

バカ初めて見た。よりによって身内に…。

ナミ みんな押しつけて出てつたの誰？ 片足裸足の氣づいてる？

ナギサ うるさい！

ナミ どこ行つてたんだよ！

ナギサ ハワイよ、ずっとハワイにいたのよ！

ナミ バカじゃねえの？ どこにいようと電話できんだろ！

ナギサ うるさいっ！ 黙れ、小娘のくせに！

呆然としゃがみ込むナギサ。

ナギサ 寂れた商店街に腐つた漁船…。記憶ん中じゃもつ少しマシだったのに。

ナミ 黄昏てんの？ (弁当箱を拾い上げる)

ナギサ 駅前の喫茶店あるでしょ？ ファックだわ、メニューが十年前と同じなの！ アタシがどんな思いで生きてきたか…なのには何事もなかったみたい。唯一の変化がこの岩場。一番変わつて欲しくない場所だけ変わつてやがる。浸食されてくのはいつもキレイな思い出だけ…。もう他人事みたいだわ！

ナミ ナギサはいつだってそつ。何でもかんでもみんな他人事。後悔してもムダだから。

ナギサ 誰が後悔なんか。武藤にお礼が言いたいぐらい。皮肉だわ。あのキチガイが乗っ

てた板、同じ奴だなんて…。

ナミ あれ、ムッティからもらったの。

ナギサ 彼、まだこの海にいるの？

ナミ サーフボード売ってる。

ナギサ やっぱお父さんの会社、継いだのね。( ) 突き刺さったハイヒールに目をやっつてあれ見て。アンタと一緒に。引つかかったまま取れなくなってる。アタシはコメンだわ！  
( ) 引き抜こうとするが、抜けない(クソっ！)

ふいに正面の海から大きな水しぶき。

水をかぶるナギサ。

やや間を置いて、夏木の「とととと出てけ、バカー」という怒鳴り声。

ナミ どうしてみんなバカなの？

暗転。

続く